

## 未来予想図

# 併願 単願 専願

今後、進路相談や進路希望調査において「併願」、「単願」、「専願」という用語を多く使用することになると思います。

そこで、今号では「併願」、「単願」、「専願」という用語について解説と確認をさせていただきます。

### 「併願」

辞書によると併願とは『受験のとき、複数の学校または同一校の複数の学部と同時に志願すること。』とあります。

これを道内の高校受験を想定して解釈するならば、①【公立高校1校と私立高校を1または2校志願する。】、②【私立高校のA日程1校とB日程1校を志願する。】の2ケースが考えられることとなります。

次に「単願」と「専願」ですが…

辞書によると単願も専願も同意で『受験の際、1校だけに願書を提出すること。』とあります。

しかし、札幌市内では慣例として下記のように「単願」と「専願」を使い分けております。

### 「単願」

【私立高校を1校だけを志願する。したがって、合格した場合には、その高校へ進学する。】

### 「専願」

【第1希望とする私立高校1校の他、公立高校1校か異なる日程の私立高校を志願するが、第1希望とする私立高校に合格した場合は必ずその私立高校へ進学する。】

こうした私立高校の「単願」、「専願」受験は、「併願」受験よりも合格の基準が易しくなる傾向があります。

例えば、①「併願受験であれば合格基準はDランク以上だが、単願と専願受験の場合はEランク以上とする。」とが、②「併願受験であれば合格基準は入試当日点70%以上だが、単願と専願受験の場合は入試当日点60%以上とする。」などです。

そのため、「併願受験」では、合格が厳しい高校を「単願」、「専願」受験することにより、合格することも可能なことがあります。

この他に私立高校では「推薦入試」があります。「推薦入試」は、筆記試験がなく面接と調査書で合否が決まる学校がほとんどで、さらに「単願」か「専願」であることが条件となるのが一般的です。しかし、「単願」、「専願」よりも合格の基準が易しくなるということはほとんどありません。(逆に合格の基準が厳しくなることもあります。)

最後に公立高校を1校だけを受検する(私立高校は受験しない)場合も、広義では単願と言えますが、札幌市内では慣例として「公立のみ」や「公立一本」などと言い、単願とは言っておりません。

「併願」、「単願」、「専願」について記しましたが、理解していただけただでしょうか。

多くの生徒たちへ進路指導をするために便宜上、「併願」、「単願」、「専願」という用語を使用し、分類しておりますが、生徒の数だけ「進路」、つまり「生き方」があると思います。そのことを私たち教員は、常に踏まえて進路指導に当たりたいと考えております。

## ●受検と受験

北海道では、公立高校(道立高校・市立高校)の入試は「学力検査」と呼ばれていることから「受検」と記し、私立高校の入試は一般的な「受験」と記するのが一般的となっております。そこで、進路通信でも公立入試は「受検」、私立入試は「受験」と記させていただきます。

## ◎coffee break GIRLS' SCHOOL

以前、藤女子高校の学校説明会に参加した時にメモ帳をいただきました。

メモ帳には「FUJI GIRLS' SCHOOL」と印刷されており、アポストロフィの位置に違和感をいただきました。「トム之母」であれば、「Tom's mother」とsの前にアポストロフィをつけますが、「GIRLS'」とSの後にアポストロフィがついていたからです。そこで、今号ではアポストロフィの位置についてコーヒープレイク!

「Tom's」のsと「girls'」のsではsの意味が異なります。「Tom's」のsは「トムの～」と所有を表すsです。一方、「girls'」のsは「少女たち」といった複数形を意味するsで、これを「少女たちの～」と所有を表す場合、「girls's」と「s's」とはせず語尾のsは省略するのです。

ちなみに「男(man)」の複数形「男たち」は「men」のため、「男たちの～」は「men's」となります。